

から面白く、価値が生まれるのだと気付いた。

●文化も全く異なり、研究の内容も知らない人に、説明したことで深く考察する能力が高くなったと思います。今まであまり聞かれなかったことを質問されたので自分の基礎知識が増えたと思います。

●他人と話すときのポジティブに話そうという態度が大きく変わったと思う。積極的に話そうとすることが文法や語彙よりも大事なのだと思った。

●コミュニケーションスキルや相手に自分の気持ちを伝える力を活かしたいです。どちらもこれから先、不特定多数の人と交流する時に絶対に身につけておきたいものなので、まずは今、普段の生活の中で親や友達とのコミュニケーションを図り、たくさんお話する機会を得ながら、これらのスキルを磨いていきたいです。

●今後社会で求められる能力として英語は必要不可欠であると思う。したがって、ほとんどの高校生が同じように英語を学んでいる。しかし、今回の研修はほとんどの高校生が経験できない貴重な体験であったと思う。これは今後社会で働く上でとても大きなアドバンテージとなる。今後はこの研修をベースに多くの人と関わっていきたい。

●今回私が学んだことが3つあります。1つ目は、英語の楽しさです。完全に楽しいという訳ではなく、極端に英語を避けていた状況から、自主的に英語に触れてみようという段階までいけました。2つ目は、人前に立つことがあまり苦に思わなくなったことです。でも、今回聴いてくれている人の反応を見ると、うなずいてくれたり、目をきちんと合わせてくれたりする人が多かったので、話している時もあまり嫌な気がせず、緊張も少しだけほぐれた気がします。この経験を生かして、今後人の発表を聴く時、自分も”反応”を大切にしたいと思いました。3つ目は、周りのサポートの大切さです。先生方やファシリテーターさん達はもちろん、大学のスタッフさんや同じ班のメンバーなど、たくさんの人に助けて貰った2日間だったなと強く思います。

●大学内は国籍や年齢、宗教などの壁を越えて、多くの外国人の生徒たちがフラットな空間で仲良く学ぶことができる大学なのだという印象を持った。私たちは大学内でプレゼンテーションに関する講義を外国人の教授から英語で聞いて、私は身体のあらゆる部分を使って自分のことを表現する「ボディーランゲージ(ジェスチャー)」の大切さに最も関心を持った。自分の身体を上手く使うことで、伝える相手により理解させることということ学び、これからのSSGでの発表の際に生かしていくべきだと感じた。また、自分たちのプレゼンテーションでは外国人ファシリテーターの方から私たち日本人の視点からは異なる多くのアドバイスや意見をいただいて、自分たちのプレゼンテーションを研修前とは比べ物にならないほど向上させることができた。そして、この研修では日本にいながらも日本語は禁止で、多種多様な国から訪日しているたくさんの外国人の方たちと英語で触れ合うことは、自分の英語のスキルやリスニングの能力によって様々な苦労はあったが、その中で積極的に恐れずに自分の英語を試し、コミュニケーションをとれたことは大きな自信となったし、また、2日間という短い期間であったが劇的に自分の英語が向上したと感じた。

引率職員 コメント

●2日間の中で生徒が成長していく姿が見られた。引率の教員に頼ることなく、グループで対処しようとする姿勢を見ることができてよかった。ファシリテーターや講師の先生と積極的に関わることで、自信がついたように見えた。

●主に発表の仕方を学ぶ場面が多かったが、発表後の質疑応答も、それほど研修していなかったにもかかわらず、意識して質問や応答を行っている生徒が多くて良かった。

●ファシリテーターや講師が、専門外の発表内容でも熱心に指導してくださり、有意義な時間になったと思う。また彼らが様々な国出身であったり、経歴であったりすることから、多文化を肌で感じ、学ぶことができたのではないと思う。

●各研究班に一人ずつファシリテーターがついてもらい、同じ部屋・同じ机・同じメンバーで進められたので、2日とはいえ、研究内容や発表方法に焦点をしばって濃密な研修ができたと思います。

